

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀市立富士小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である																																																																																				
1 前年度 評価結果の概要		・各教科において「知識・理解」より「思考・判断・表現」の項目が下回っており、表現する力や獲得した知識を活用する力が不足している。9年間を見通して中学校が目指す生徒の主体性育成のために小学部では、自らの考えを自らのことばで表現できる児童の育成が必要である。 ・「心の教育」においては、いじめの早期発見・早期対応のため、日頃の見とり、アンケートなどから得られた児童の情報を全職員で共有し、児童は安心して学校生活を送ることができた。また、小中でも話し合いの機会を設け、互いの児童生徒理解が進んだ。 ・「健康・体づくり」においては、児童が朝食をきちんと食べるようになっており、睡眠時間については、9時間睡眠ができてない児童もいるが、保護者の意識は高まっている。 ・小中連携では合同協議会や、合同行事、合同校内研究、合同職員研修の実施により連携のとれた子どもの育成ができた。																																																																																						
2 学校教育目標		地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成																																																																																						
3 本年度の重点目標		① 基礎学力の確実な定着と児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上 ② 自他の命を大切にし、郷土を愛する心豊かな児童を育てる。（道徳教育・人権教育の充実、小中できめ細やかな児童生徒家庭支援） ③ 心身共に健やかでたくましい児童を育てる。（基本的生活習慣や学習規律の確立、外遊びの推奨） ④ 地域に信頼される「開かれた学校づくり」の推進。（コミュニティ・スクールの有意義な活用、HP等を活用した地域、保護者への啓発）																																																																																						
4 重点取組内容・成果指標			5 最終評価																																																																																					
(1)共通評価項目																																																																																								
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th><th>評価</th><th>意見や提言</th></tr><tr><td>●学力の向上</td><td>○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的・対話的で深い学びによる学力の定着に向けた授業実践。</td><td>○「相手意識と目的意識を明確にし自らの考えを自らのことばで表現できていると思う」と回答した児童が80％以上</td><td>A</td><td>・授業では「聞く・書く・考える・話し合う」場の設定をし、児童による振り返りを必ず入れる。 ・表現の基礎となる音読集の暗唱に取り組む。 ・長期休業中に学力向上についての校内研修を実施し、全学年で研究授業を実施する。</td><td>・授業の終わりに口頭やノート記入などふり返りをするように取り組むことができた。 ・全児童音読集を使い音読・暗唱に取り組むことができた。暗記した児童は校長に聞いてもらい合格シールを獲得した。 ・長期休業中に全国学力・学習状況調査を全職員で解き児童に求められている力を分析することができた。</td><td>A</td><td>・今年度、授業参観はあまりできなかったが、体験活動などでの子供たちの発言は、深く考えての発言が多く、成長を感じる。 ・家庭学習の定着ができていないとのことなので、家庭との連携が必要。 ・課題解決に向け細かな取組が「元気に挨拶」「学校が楽しい」に反映されていると思う。</td></tr><tr><td rowspan="3">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○全校児童の「心の教育」に計画的に取り組めたという教員90％以上 ○「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童90％以上</td><td>A</td><td>・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・道徳の授業づくりや、児童への日々の声かけなど「豊かな心」を育む指導の共通理解を図る。 ・自分や友だちのよさを見つたり認めたりできる活動に取り組む。（友達だす木の取組）</td><td>・人権教室を計画的に行い、自分や友だちのよさを見つける取り組みを実施・掲示したことで、明るく自信をもって生活する姿が多く見られた。 ・「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童は95.5％だった。</td><td>A</td><td>・町内の戦争体験者を招いて平和学習を実施されたことは、子どもたちが、平和について自分事として考えることに役立ったと思う。 ・友達と仲良くできているので安心した。少人数であるが、みんなで助け合ってほしい。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童90％以上 ○いじめの早期発見、早期対応のために組織的に取り組めたという教員90％以上</td><td>A</td><td>・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点からの情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・毎学期、教育相談週間を設定し、児童一人一人の思いに寄り添う学級経営を工夫して行う。</td><td>・「ほかにアンケート」をもとに、職員同士で情報共有し、複数人で見守り、適切な対応を早期に行うことができた。 ・学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童は91.2％だった。</td><td>A</td><td>・毎月の「ほかにアンケート」でいじめの早期発見につとめ、情報の共有をされており、全職員で指導にあたられていることが、いじめの減少につながっていると思う。 ・子どもたちが楽しく安心して学校生活を送っているようで、委員として安心した。 ・職員間の情報共有は児童にとって、どの先生からも見守られているという安心感につながり有効だと思う。</td></tr><tr><td>●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80％以上</td><td>A</td><td>・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「ほめる週間」の設定で意識を高める。 ・地域の教育資源や人材等を積極的に活用した「ふるさと学習」を推進し、ふるさと富士町への誇りを高めさせていくとともに、キャリアパスポートの有効な活用を図り、各自の夢をもたせる。</td><td>・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が84.8％で、目標の達成ができた。来年度も児童一人ひとりのよさを引き出せるような教育活動を計画していく。 ・キャリアパスポートの有効な活用で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が87.9％で目標を達成することができた。</td><td>A</td><td>・日々の学校生活の中で、先生方が子どもたちに寄り添って、指導をさせていただいていると感じる。 ・どの学年も故郷富士町に係わる学習を多くしており、故郷を誇りに思う気持ちが育っていくと思う。将来、富士町の発展を担っていく人間が育って欲しい。 ・自己肯定感を高めることは児童の自信につながるので、今後も取り組んで欲しい。</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●「運動習慣の改善や定着化」</td><td>●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童70％以上</td><td>B</td><td>・体育の授業資料等を教師間で共有し、運動の楽しさに触れられるような授業づくりを工夫する。 ・縦割りグループの活動（なわとび大会）や各学級で県スポーツチャレンジに取り組むとともに、外遊びを推奨する。</td><td>・1日に60分以上、外遊びをしている児童が69.1％とわずかに達成することができなかった。しかし、学期に1回全校でスポーツする時間を取り組んだり、生活の話で繰り返し外遊びの大切さを放送したりすることで、外遊びの大切さを意識づけられた。 ・「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童は90％を超えていたが、すこやか週間の結果を見ると、早寝やゲームの時間など課題が残った。</td><td>B</td><td>・体力テストの結果から、体力面での課題解決のため、ジョギング週間やジョギング大会など新たな取組みをされたことは良かったと思う。居住地が友達と離れていて、休みのときなど外遊びの機会が少なくなっていることも体力低下につながっていると思う。 ・健康への意識は高いが、睡眠時間がきちんと確保できていないようで心配である。 ・早寝やゲーム時間の課題は親の生活のリズムが影響していると思う。</td></tr><tr><td>●「健康を考えて行動できる能力の育成」</td><td>○「安全に関する資質・能力の育成」</td><td>○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にし、災害時対応の各避難訓練では、5分以内に全校避難を完了させる。</td><td>A</td><td>・交通安全教室や日頃の指導により安全に対する児童の意識を高める。 ・年間4回の全校避難訓練を実施する。</td><td>A</td><td>・児童の交通事故や生活事故がないことは、日頃の指導のたまものだと思う。今後も安全指導について緊張感を持たせて取り組んで欲しい。</td></tr><tr><td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</td><td>A</td><td>・定時退勤日、マイ定時退勤日の設定とともに掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。 ・年休取得を推進する。（年間14日以上）</td><td>・職員の月時間外勤務の平均を27.5時間に縮減することができ、職員の意識が高まった。 ・令和6年の年休取得日数の平均は13日でほぼ目標が達成できた。</td><td>A</td><td>・朝早くから夜遅くまで業務をされており、職員の体調管理が心配である。他校にくらべ、時間外勤務が少なくなっているとのことである。地域ができることは協力したい。 ・良好な職員体制が業務の効率化に反映されると思う。</td></tr><tr><td>○全職員で行事の精選や統合等の見直しを行う。</td><td>○会議の1割削減を目指し、毎学期、行事の精選や統合に取り組む。</td><td>A</td><td>・学校行事に係る時間の見直しを建設的に行う。</td><td>・学校行事の内容を改善し、準備等の時間削減をすることができた。</td><td>A</td><td>・体育大会については、業務改善のため小学校グラウンドでの開催を考えてもいいのではないだろうか。</td></tr><tr><td>●特別支援教育の充実</td><td>○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上</td><td>○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90％以上</td><td>A</td><td>・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有</td><td>・特別支援学級の授業や実践を参観し支援が必要な児童への有効な手立てを学ぶことができた。 ・特別支援教育に関する専門性が「向上した」「やや向上した」と回答した教員は100％だった。</td><td>A</td><td>・特別支援教育はとても大切だと思う。子どもたち一人ひとりを大切にし、より良く成長できるよう支援をしてほしい。</td></tr></table>						重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的・対話的で深い学びによる学力の定着に向けた授業実践。	○「相手意識と目的意識を明確にし自らの考えを自らのことばで表現できていると思う」と回答した児童が80％以上	A	・授業では「聞く・書く・考える・話し合う」場の設定をし、児童による振り返りを必ず入れる。 ・表現の基礎となる音読集の暗唱に取り組む。 ・長期休業中に学力向上についての校内研修を実施し、全学年で研究授業を実施する。	・授業の終わりに口頭やノート記入などふり返りをするように取り組むことができた。 ・全児童音読集を使い音読・暗唱に取り組むことができた。暗記した児童は校長に聞いてもらい合格シールを獲得した。 ・長期休業中に全国学力・学習状況調査を全職員で解き児童に求められている力を分析することができた。	A	・今年度、授業参観はあまりできなかったが、体験活動などでの子供たちの発言は、深く考えての発言が多く、成長を感じる。 ・家庭学習の定着ができていないとのことなので、家庭との連携が必要。 ・課題解決に向け細かな取組が「元気に挨拶」「学校が楽しい」に反映されていると思う。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全校児童の「心の教育」に計画的に取り組めたという教員90％以上 ○「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童90％以上	A	・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・道徳の授業づくりや、児童への日々の声かけなど「豊かな心」を育む指導の共通理解を図る。 ・自分や友だちのよさを見つたり認めたりできる活動に取り組む。（友達だす木の取組）	・人権教室を計画的に行い、自分や友だちのよさを見つける取り組みを実施・掲示したことで、明るく自信をもって生活する姿が多く見られた。 ・「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童は95.5％だった。	A	・町内の戦争体験者を招いて平和学習を実施されたことは、子どもたちが、平和について自分事として考えることに役立ったと思う。 ・友達と仲良くできているので安心した。少人数であるが、みんなで助け合ってほしい。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童90％以上 ○いじめの早期発見、早期対応のために組織的に取り組めたという教員90％以上	A	・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点からの情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・毎学期、教育相談週間を設定し、児童一人一人の思いに寄り添う学級経営を工夫して行う。	・「ほかにアンケート」をもとに、職員同士で情報共有し、複数人で見守り、適切な対応を早期に行うことができた。 ・学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童は91.2％だった。	A	・毎月の「ほかにアンケート」でいじめの早期発見につとめ、情報の共有をされており、全職員で指導にあたられていることが、いじめの減少につながっていると思う。 ・子どもたちが楽しく安心して学校生活を送っているようで、委員として安心した。 ・職員間の情報共有は児童にとって、どの先生からも見守られているという安心感につながり有効だと思う。	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80％以上	A	・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「ほめる週間」の設定で意識を高める。 ・地域の教育資源や人材等を積極的に活用した「ふるさと学習」を推進し、ふるさと富士町への誇りを高めさせていくとともに、キャリアパスポートの有効な活用を図り、各自の夢をもたせる。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が84.8％で、目標の達成ができた。来年度も児童一人ひとりのよさを引き出せるような教育活動を計画していく。 ・キャリアパスポートの有効な活用で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が87.9％で目標を達成することができた。	A	・日々の学校生活の中で、先生方が子どもたちに寄り添って、指導をさせていただいていると感じる。 ・どの学年も故郷富士町に係わる学習を多くしており、故郷を誇りに思う気持ちが育っていくと思う。将来、富士町の発展を担っていく人間が育って欲しい。 ・自己肯定感を高めることは児童の自信につながるので、今後も取り組んで欲しい。	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童70％以上	B	・体育の授業資料等を教師間で共有し、運動の楽しさに触れられるような授業づくりを工夫する。 ・縦割りグループの活動（なわとび大会）や各学級で県スポーツチャレンジに取り組むとともに、外遊びを推奨する。	・1日に60分以上、外遊びをしている児童が69.1％とわずかに達成することができなかった。しかし、学期に1回全校でスポーツする時間を取り組んだり、生活の話で繰り返し外遊びの大切さを放送したりすることで、外遊びの大切さを意識づけられた。 ・「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童は90％を超えていたが、すこやか週間の結果を見ると、早寝やゲームの時間など課題が残った。	B	・体力テストの結果から、体力面での課題解決のため、ジョギング週間やジョギング大会など新たな取組みをされたことは良かったと思う。居住地が友達と離れていて、休みのときなど外遊びの機会が少なくなっていることも体力低下につながっていると思う。 ・健康への意識は高いが、睡眠時間がきちんと確保できていないようで心配である。 ・早寝やゲーム時間の課題は親の生活のリズムが影響していると思う。	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にし、災害時対応の各避難訓練では、5分以内に全校避難を完了させる。	A	・交通安全教室や日頃の指導により安全に対する児童の意識を高める。 ・年間4回の全校避難訓練を実施する。	A	・児童の交通事故や生活事故がないことは、日頃の指導のたまものだと思う。今後も安全指導について緊張感を持たせて取り組んで欲しい。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時退勤日、マイ定時退勤日の設定とともに掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。 ・年休取得を推進する。（年間14日以上）	・職員の月時間外勤務の平均を27.5時間に縮減することができ、職員の意識が高まった。 ・令和6年の年休取得日数の平均は13日でほぼ目標が達成できた。	A	・朝早くから夜遅くまで業務をされており、職員の体調管理が心配である。他校にくらべ、時間外勤務が少なくなっているとのことである。地域ができることは協力したい。 ・良好な職員体制が業務の効率化に反映されると思う。	○全職員で行事の精選や統合等の見直しを行う。	○会議の1割削減を目指し、毎学期、行事の精選や統合に取り組む。	A	・学校行事に係る時間の見直しを建設的に行う。	・学校行事の内容を改善し、準備等の時間削減をすることができた。	A	・体育大会については、業務改善のため小学校グラウンドでの開催を考えてもいいのではないだろうか。	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90％以上	A	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	・特別支援学級の授業や実践を参観し支援が必要な児童への有効な手立てを学ぶことができた。 ・特別支援教育に関する専門性が「向上した」「やや向上した」と回答した教員は100％だった。	A	・特別支援教育はとても大切だと思う。子どもたち一人ひとりを大切にし、より良く成長できるよう支援をしてほしい。
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																																		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言																																																																																	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的・対話的で深い学びによる学力の定着に向けた授業実践。	○「相手意識と目的意識を明確にし自らの考えを自らのことばで表現できていると思う」と回答した児童が80％以上	A	・授業では「聞く・書く・考える・話し合う」場の設定をし、児童による振り返りを必ず入れる。 ・表現の基礎となる音読集の暗唱に取り組む。 ・長期休業中に学力向上についての校内研修を実施し、全学年で研究授業を実施する。	・授業の終わりに口頭やノート記入などふり返りをするように取り組むことができた。 ・全児童音読集を使い音読・暗唱に取り組むことができた。暗記した児童は校長に聞いてもらい合格シールを獲得した。 ・長期休業中に全国学力・学習状況調査を全職員で解き児童に求められている力を分析することができた。	A	・今年度、授業参観はあまりできなかったが、体験活動などでの子供たちの発言は、深く考えての発言が多く、成長を感じる。 ・家庭学習の定着ができていないとのことなので、家庭との連携が必要。 ・課題解決に向け細かな取組が「元気に挨拶」「学校が楽しい」に反映されていると思う。																																																																																	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全校児童の「心の教育」に計画的に取り組めたという教員90％以上 ○「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童90％以上	A	・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・道徳の授業づくりや、児童への日々の声かけなど「豊かな心」を育む指導の共通理解を図る。 ・自分や友だちのよさを見つたり認めたりできる活動に取り組む。（友達だす木の取組）	・人権教室を計画的に行い、自分や友だちのよさを見つける取り組みを実施・掲示したことで、明るく自信をもって生活する姿が多く見られた。 ・「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童は95.5％だった。	A	・町内の戦争体験者を招いて平和学習を実施されたことは、子どもたちが、平和について自分事として考えることに役立ったと思う。 ・友達と仲良くできているので安心した。少人数であるが、みんなで助け合ってほしい。																																																																																	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童90％以上 ○いじめの早期発見、早期対応のために組織的に取り組めたという教員90％以上	A	・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点からの情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・毎学期、教育相談週間を設定し、児童一人一人の思いに寄り添う学級経営を工夫して行う。	・「ほかにアンケート」をもとに、職員同士で情報共有し、複数人で見守り、適切な対応を早期に行うことができた。 ・学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童は91.2％だった。	A	・毎月の「ほかにアンケート」でいじめの早期発見につとめ、情報の共有をされており、全職員で指導にあたられていることが、いじめの減少につながっていると思う。 ・子どもたちが楽しく安心して学校生活を送っているようで、委員として安心した。 ・職員間の情報共有は児童にとって、どの先生からも見守られているという安心感につながり有効だと思う。																																																																																	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80％以上	A	・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「ほめる週間」の設定で意識を高める。 ・地域の教育資源や人材等を積極的に活用した「ふるさと学習」を推進し、ふるさと富士町への誇りを高めさせていくとともに、キャリアパスポートの有効な活用を図り、各自の夢をもたせる。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が84.8％で、目標の達成ができた。来年度も児童一人ひとりのよさを引き出せるような教育活動を計画していく。 ・キャリアパスポートの有効な活用で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が87.9％で目標を達成することができた。	A	・日々の学校生活の中で、先生方が子どもたちに寄り添って、指導をさせていただいていると感じる。 ・どの学年も故郷富士町に係わる学習を多くしており、故郷を誇りに思う気持ちが育っていくと思う。将来、富士町の発展を担っていく人間が育って欲しい。 ・自己肯定感を高めることは児童の自信につながるので、今後も取り組んで欲しい。																																																																																	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童70％以上	B	・体育の授業資料等を教師間で共有し、運動の楽しさに触れられるような授業づくりを工夫する。 ・縦割りグループの活動（なわとび大会）や各学級で県スポーツチャレンジに取り組むとともに、外遊びを推奨する。	・1日に60分以上、外遊びをしている児童が69.1％とわずかに達成することができなかった。しかし、学期に1回全校でスポーツする時間を取り組んだり、生活の話で繰り返し外遊びの大切さを放送したりすることで、外遊びの大切さを意識づけられた。 ・「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童は90％を超えていたが、すこやか週間の結果を見ると、早寝やゲームの時間など課題が残った。	B	・体力テストの結果から、体力面での課題解決のため、ジョギング週間やジョギング大会など新たな取組みをされたことは良かったと思う。居住地が友達と離れていて、休みのときなど外遊びの機会が少なくなっていることも体力低下につながっていると思う。 ・健康への意識は高いが、睡眠時間がきちんと確保できていないようで心配である。 ・早寝やゲーム時間の課題は親の生活のリズムが影響していると思う。																																																																																	
	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にし、災害時対応の各避難訓練では、5分以内に全校避難を完了させる。	A	・交通安全教室や日頃の指導により安全に対する児童の意識を高める。 ・年間4回の全校避難訓練を実施する。	A	・児童の交通事故や生活事故がないことは、日頃の指導のたまものだと思う。今後も安全指導について緊張感を持たせて取り組んで欲しい。																																																																																	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・定時退勤日、マイ定時退勤日の設定とともに掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。 ・年休取得を推進する。（年間14日以上）	・職員の月時間外勤務の平均を27.5時間に縮減することができ、職員の意識が高まった。 ・令和6年の年休取得日数の平均は13日でほぼ目標が達成できた。	A	・朝早くから夜遅くまで業務をされており、職員の体調管理が心配である。他校にくらべ、時間外勤務が少なくなっているとのことである。地域ができることは協力したい。 ・良好な職員体制が業務の効率化に反映されると思う。																																																																																	
	○全職員で行事の精選や統合等の見直しを行う。	○会議の1割削減を目指し、毎学期、行事の精選や統合に取り組む。	A	・学校行事に係る時間の見直しを建設的に行う。	・学校行事の内容を改善し、準備等の時間削減をすることができた。	A	・体育大会については、業務改善のため小学校グラウンドでの開催を考えてもいいのではないだろうか。																																																																																	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90％以上	A	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	・特別支援学級の授業や実践を参観し支援が必要な児童への有効な手立てを学ぶことができた。 ・特別支援教育に関する専門性が「向上した」「やや向上した」と回答した教員は100％だった。	A	・特別支援教育はとても大切だと思う。子どもたち一人ひとりを大切にし、より良く成長できるよう支援をしてほしい。																																																																																	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																																																																																								
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th><th colspan="2">最終評価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th><th>評価</th><th>意見や提言</th></tr><tr><td>○小中連携</td><td>○9年間の学びを意識した小中連携による児童生徒の育成</td><td>○すべての学年において、中学部との交流授業や乗り入れ授業を行う。中学部との連携がとれている肯定的に答える保護者90％以上。 ○教科の指導内容や方法等について、中学部と連携ができたと考え教師の割合90％以上</td><td>A</td><td>・小中合同協議会の内容を充実させ、効果的な合同研修会を実施する。対話による相互理解・共通理解を図る。 ・児童理解や9年間を見通した学習習慣・規律など、連携についての工夫を図る。</td><td>・小中合同体育大会等の小中合同行事や高学年の中学部での授業、音楽科の中学部からの乗入れ授業等が計画的に実施ができ、小中で共通理解が深まった。児童も、中学部での学習が楽しかったと答えた。（91.0％）</td><td>A</td><td>・中学校の先生が小学部に指導に来られていることは素晴らしい取組みだと思う。 ・中学部からの乗入れ授業や中学部での学習は、中1ギャップの解消につながっていると思う。</td></tr><tr><td>○コミュニティスクール</td><td>○学校運営協議会の充実と情報発信による地域に開かれた学校づくり</td><td>○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100％ ○学校運営協議会委員の学校行事参画10回以上 ○学校HPを見たことがあるという保護者90％以上</td><td>A</td><td>・「学校便り」「学校HP」「学校情報メール」の活用及び学校運営協議会や地域学校協働活動推進本部を核とした連携を強化する。 ・保護者や地域への積極的な情報発信・受信を行う。</td><td>・家庭では「学校だより」「学校ホームページ」に目を通していると回答した保護者が91.5％で、学校行事や教育活動への認知度も高い。 ・地域の方をGTとして活用することが増え、地域との連携を進めた。</td><td>A</td><td>・「学校だより」は、地区住民にも回覧されており、学校の様子がわかりやすく好評。細かな情報発信で、どこでどんな授業が実施されているか把握しやすい。 ・総合的な学習の時間や社会科の授業にゲストティーチャーとして協力しているが、子どもたちの学習意欲が高く頼もしい。</td></tr></table>						重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	○小中連携	○9年間の学びを意識した小中連携による児童生徒の育成	○すべての学年において、中学部との交流授業や乗り入れ授業を行う。中学部との連携がとれている肯定的に答える保護者90％以上。 ○教科の指導内容や方法等について、中学部と連携ができたと考え教師の割合90％以上	A	・小中合同協議会の内容を充実させ、効果的な合同研修会を実施する。対話による相互理解・共通理解を図る。 ・児童理解や9年間を見通した学習習慣・規律など、連携についての工夫を図る。	・小中合同体育大会等の小中合同行事や高学年の中学部での授業、音楽科の中学部からの乗入れ授業等が計画的に実施ができ、小中で共通理解が深まった。児童も、中学部での学習が楽しかったと答えた。（91.0％）	A	・中学校の先生が小学部に指導に来られていることは素晴らしい取組みだと思う。 ・中学部からの乗入れ授業や中学部での学習は、中1ギャップの解消につながっていると思う。	○コミュニティスクール	○学校運営協議会の充実と情報発信による地域に開かれた学校づくり	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100％ ○学校運営協議会委員の学校行事参画10回以上 ○学校HPを見たことがあるという保護者90％以上	A	・「学校便り」「学校HP」「学校情報メール」の活用及び学校運営協議会や地域学校協働活動推進本部を核とした連携を強化する。 ・保護者や地域への積極的な情報発信・受信を行う。	・家庭では「学校だより」「学校ホームページ」に目を通していると回答した保護者が91.5％で、学校行事や教育活動への認知度も高い。 ・地域の方をGTとして活用することが増え、地域との連携を進めた。	A	・「学校だより」は、地区住民にも回覧されており、学校の様子がわかりやすく好評。細かな情報発信で、どこでどんな授業が実施されているか把握しやすい。 ・総合的な学習の時間や社会科の授業にゲストティーチャーとして協力しているが、子どもたちの学習意欲が高く頼もしい。																																																				
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価																																																																																		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言																																																																																	
○小中連携	○9年間の学びを意識した小中連携による児童生徒の育成	○すべての学年において、中学部との交流授業や乗り入れ授業を行う。中学部との連携がとれている肯定的に答える保護者90％以上。 ○教科の指導内容や方法等について、中学部と連携ができたと考え教師の割合90％以上	A	・小中合同協議会の内容を充実させ、効果的な合同研修会を実施する。対話による相互理解・共通理解を図る。 ・児童理解や9年間を見通した学習習慣・規律など、連携についての工夫を図る。	・小中合同体育大会等の小中合同行事や高学年の中学部での授業、音楽科の中学部からの乗入れ授業等が計画的に実施ができ、小中で共通理解が深まった。児童も、中学部での学習が楽しかったと答えた。（91.0％）	A	・中学校の先生が小学部に指導に来られていることは素晴らしい取組みだと思う。 ・中学部からの乗入れ授業や中学部での学習は、中1ギャップの解消につながっていると思う。																																																																																	
○コミュニティスクール	○学校運営協議会の充実と情報発信による地域に開かれた学校づくり	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100％ ○学校運営協議会委員の学校行事参画10回以上 ○学校HPを見たことがあるという保護者90％以上	A	・「学校便り」「学校HP」「学校情報メール」の活用及び学校運営協議会や地域学校協働活動推進本部を核とした連携を強化する。 ・保護者や地域への積極的な情報発信・受信を行う。	・家庭では「学校だより」「学校ホームページ」に目を通していると回答した保護者が91.5％で、学校行事や教育活動への認知度も高い。 ・地域の方をGTとして活用することが増え、地域との連携を進めた。	A	・「学校だより」は、地区住民にも回覧されており、学校の様子がわかりやすく好評。細かな情報発信で、どこでどんな授業が実施されているか把握しやすい。 ・総合的な学習の時間や社会科の授業にゲストティーチャーとして協力しているが、子どもたちの学習意欲が高く頼もしい。																																																																																	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育																																																																																								
5 総合評価・ 次年度への展望		・今年度、暗唱活動や各学年の全校放送などで培った表現する力を次年度につなげ、各教科指導だけでなく、すべての活動で主体的に能動的に活動できる児童の育成を目指す。 ・SC、SSW等の専門家や児相、SSF等の外部機関との連携を密にとり小中9年間を見通した「心の教育」の充実により、更なるきめ細やかな児童生徒及び家庭支援を行い、いじめ、不登校のない学校を目指す。 ・学校運営協議会との連携について、小中一貫校富士校としてより有意義なあり方、活用の仕方を検討していく。																																																																																						